

| 出題分析 | | |
|---|------------------------|---|
| 試験時間 90分 | 配点 文 200点 情-社会 400点 | 大問数 3題 |
| 分量（昨年比較）〔減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加〕 | | 難易度変化（昨年比較） 〔易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化〕 |
| <p>【概評】</p> <p>大問数は3題で昨年と同じで、記号選択、短答記述、論述の問題からなる。答案紙の枚数は昨年度より1枚少ない5枚である。また昨年度と同じく地形図を用いた出題があったが、今年度は昨年度あった作図問題は見られない。論述問題では、従来通り要因や背景に言及させるものが多い。名古屋大学の論述問題は基本的に字数指定はなく、1問ごとに太枠線内の白部に任意に記入する形式であるが、昨年度に続き今年度もマス目の解答欄による論述問題が1問あった。このマス目の解答欄による問題は、昨年度は300字以内であったが、今年度は問題Iの問1(1)の200字以内の論述であった。全体を通して昨年度より答えにくい問題が多い。</p> | | |

| 設問別講評 | | | |
|-------|---------------|---|-----|
| 問題 | 出題分野・テーマ | 設問内容・解答のポイント | 難易度 |
| I | 自然環境と人間生活との関係 | 問1の(1)は200字の論述で、海洋性気候と大陸性気候の違いを説明する問題で得点源である。(2)は中緯度のCの範囲から、気候因子の標高を念頭に気温の通減に着目して書く。(3)は地球温暖化が従来のケッペンの気候区の分布を変えうることを述べる。問2の(1)は稲作の栽培条件を述べる平易な問題である。(2)は灌漑、棚田の造成などの農業技術を述べる。問3は地形図の読み取りで、(1)の集落の立地上の利点は書きやすい。(2)は2つの集落の名称から類推しやすい。(3)の丘陵地の土地利用の特徴は平易である。 | 標準 |

| 設問別講評 | | | |
|-------|-------|---|-----|
| II | 経済と環境 | カナダ、ナミビア、マレーシアの経済と環境を扱っている。問 1 の(1)はカナダ、ナミビア、マレーシアの土地利用の判定で失点は戒めたい。問 2 の(1)では貿易協定名称は答えられても要件の名称は答えにくい。(2)はやや難しい。シリコンバレーとバンクーバーが同じ等時帯にあり連携しやすいことに言及する。(3)はカナダの英語圏とフランス語圏の説明で平易である。問 3 の(1)はダイヤモンドとオレンジ川の関係は難しい。(2)の問題点は書きやすい。(3)はナミブ砂漠の成因で得点源としたい。問 4 の(1)は失点できない。(2)の成長の三角地帯などは難しい。(3)のマングローブ林の減少と要因の説明は、資料の読み取りで解答できる。 | やや難 |
| III | 地球的課題 | 問 1 はアフリカの乳幼児死亡率の階級区分図の判断で平易である。(2)は乳幼児死亡率を下げるための取り組みの説明で、衛生、医療、食料事情などをあげて説明できるとよい。問 2 の(1)と(2)は日本の太陽光、地熱、風力の立地についての問題で、平易である。(3)は自然エネルギーの不安定さの克服対策として日本と外国の事例をあげる問題で、送電網の整備、国家間の電力融通などに言及する。問 3 は工夫された問題で、資料をもとにうまく説明したい。 | 標準 |

合格のための学習法

従来は教科書レベルの知識があれば十分対応できたが、今年度は昨年度にも増して書きにくい問題が目立った。出題者の意図を考えながら、持っている知識を応用して解答につなげていく力が求められている。論述問題では、単に地理用語を説明させるだけでなく、資料などの読み取りから、答えと判断した理由やその背景を書かせる問題が多いことから、表面的な理解ではなくより深い学習が必要である。統計問題が毎年出題されているので、統計集を使って代表的な農産物、鉱産資源、工業製品の生産国などを押さえておこう。